

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	財務会計2 (Financial Accounting 2) 393152-14600					担当教員	喬 雪氷 (キョウ セツヒョウ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単 位 数	2	配当年次	3年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
財務会計の目的は、企業が株主や債権者などの外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告することである。企業における会計処理と財務諸表の作成・公開にあたって準拠すべき会計基準と基準を支える会計理論が存在する。本講義は、会計基準、会計基礎理論と発展理論を踏まえ、財務会計におけるアウトラインを把握することを目標とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力／職業人として通用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
各回の講義前に、指定する範囲について教科書を必ず一読する。必要に応じてレジュメを配布する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
簿記・会計関連科目を履修することが望ましい。「財務会計2」と共に履修することを推奨する。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 発生主義会計に関わる各認識基準について説明することができる。 (ii) 具体的な会計処理の例を挙げながら、資産と負債の認識と測定について解釈することができる。 (iii) 資産負債アプローチと収益費用アプローチの概要について説明することができる。
⑥ テキスト（教科書）
藤井秀樹（2021）『入門財務会計 第4版』中央経済社
⑦ 参考図書・指定図書
桜井久勝（2021）『財務会計講義 第22版』中央経済社

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 発生主義会計に関わる各認識基準	発生主義会計について、具体的な例を活用し、説明したうえで、その相違を解釈することができる。	発生主義の原則、収益と費用の認識基準について、例を挙げながらすべてを説明することができる。	発生主義の原則、収益と費用の認識基準について、例を挙げながら一部を説明することができる。	発生主義の原則、収益と費用の認識基準について、箇条書きで類別することができる。	発生主義会計に関わる各認識基準について説明することができない。
(ii) 資産と負債の認識と測定	資産と負債の認識と測定に関わる各会計処理を比較し、その相違について考察することができる。	具体的な会計処理の例を挙げ、資産と負債の認識と測定についての考え方を解釈することができる。	リース会計、退職給付会計、資産除去債務などの会計処理の概要を説明することができる。	割引現在価値の考え方を理解し、各会計処理との関わりについて説明することができる。	資産や負債の認識と測定に関わる会計処理の例を説明することができない。
(iii) 資産負債アプローチと収益費用アプローチ	2つの会計観から派生した利益概念の二元化について解釈することができる。	概念フレームワークにおける2つの会計観の定義・概要を説明することができる。	2つの会計観について、時代的背景を踏まえ解釈することができる。	2つの会計観について、概要を述べられるが、歴史的な経緯を説明することができない。	2つの会計観の概要を説明することができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		40%					100%
(i) 発生主義会計に関わる各認識基準	20%		10%					30%
(ii) 資産と負債の認識と測定	20%		20%					40%
(iii) 資産負債アプローチと収益費用アプローチ	20%		10%					30%
フィードバックの方法	毎回、講義のポイントをまとめるプリントを配布し、書き込み欄と穴埋め箇所を設けることにより、学習した内容を再確認し知識を深める。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
財務会計は「企業経営を総合的、包括的かつ統一的にとらえる唯一のツール」だと言われる。専門知識の勉強は無味乾燥なモノだが、理解して活用できるようになると、その達成感と喜びも大きなモノ

である。山登りはつらいが、山頂で素敵な風景が見られるという気持ちで取り込んでいきましょう。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス・財務会計1の復習と総括	配布した資料を復習する。	60分
2	第8章 発生主義会計① ・発生主義の原則	教科書 pp. 131～139 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
3	第8章 発生主義会計② ・収益と費用の認識基準	教科書 pp. 140～160 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
4	第9章 配分と評価① ・費用配分の原則と減価償却	教科書 pp. 161～169 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
5	第9章 配分と評価② ・棚卸資産の原価の配分・配分と評価の比較	教科書 pp. 170～178 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
6	第9章 配分と評価③ ・減損会計・低価基準・原価主義会計	教科書 pp. 179～195 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
7	第10章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ① ・2つの会計観の相違	教科書 pp. 196～209 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
8	第10章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ② ・利益概念の二元化	教科書 pp. 210～218 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
9	第11章 資産・負債の認識と測定① ・有価証券の時価評価	教科書 pp. 219～232 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
10	第11章 資産・負債の認識と測定② ・リース会計	教科書 pp. 233～247 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
11	第11章 資産・負債の認識と測定③ ・退職給付会計	教科書 pp. 247～254 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
12	第11章 資産・負債の認識と測定④ ・資産除去債務会計	教科書 pp. 254～262 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
13	第12章 純資産の会計① ・純資産の表示区分と構成項目	教科書 pp. 263～273 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
14	第12章 純資産の会計② ・資本の概念と株主資本	教科書 pp. 274～292 を読んでくること。プリントを復習すること。	60分
15	まとめ	配布した資料を復習する。	60分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。授業の内容を基に、毎回配布するプリントに内容のまとめ（空欄補助など）を行い、復習し、学習内容をフィードバックする。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性